



平成22年5月10日

各位

会社名 株式会社 葵プロモーション
 代表者 代表取締役社長 藤原 次彦
 (コード番号9607 東証第一部)
 問合せ先 専務取締役 八重樫 悟
 TEL03(3779)8000

業績予想及び配当予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成21年11月6日に公表した業績予想及び平成21年5月20日に公表した配当予想を下記のとおり修正しましたのでお知らせいたします。

記

1. 業績予想の修正

(1) 平成22年3月期通期連結業績予想数値の修正(平成21年4月1日～平成22年3月31日)
 (単位:百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益(円)
前回発表予想(A)	13,900	460	130	250	20.90
今回修正予想(B)	14,171	882	594	474	39.78
増減額(B-A)	271	422	464	224	-
増減率	1.9	91.7	356.9	89.6	-
(ご参考)前期(平成21年3月期)実績	16,765	432	388	△289	△23.84

(2) 平成22年3月期通期個別業績予想数値の修正(平成21年4月1日～平成22年3月31日)
 (単位:百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益(円)
前回発表予想(A)	9,800	260	300	200	16.72
今回修正予想(B)	9,560	401	474	418	35.02
増減額(B-A)	△240	141	174	218	-
増減率	△2.4	54.2	58.0	109.0	-
(ご参考)前期(平成21年3月期)実績	13,016	535	630	△168	△13.86

(3) 理由

回復基調にはあるものの、金融危機発生以前の水準を取り戻せていないわが国経済の動きを反映し、広告需要は大きく落ち込みました。加えてメディアの新しい展開による広告媒体の多様化による影響もあり、厳しい経営環境が続いております。

① 連結

(a) 売上高

生活関連商品を中心とした中小規模のCM作品が主体の子会社の受注が当初の横這い予想から営業努力もあり大きく伸長し、下記のとおり前回発表予想を下回る見込みの個別の売上高をカバーして、更に前回発表予想を上回る見込みです。

(b) 利益

前回発表予想時は個別業績も子会社業績も回復の足取りが鈍いと判断しましたが、子会社各社が上記増収効果に加え、制作原価や固定費の削減に努めたことから大幅に改善し、かつ個別業績も下記のとおりであり、連結業績も営業利益・経常利益・当期純利益とも、前回発表予想を上回る見込みです。

② 個別

(a) 売上高

上記の経済情勢を受け、ほぼ全業種からの受注が低迷する中、特に大規模のCM作品が多い自動車・化粧品等の減少が大きく、売上高は10数年前の水準にまで落ち込み、前回発表予想をも下回る見込みです。

(b) 利益

制作手法や決裁権限の見直し等による徹底した制作原価低減策、人件費・家賃等の固定費の抑制策が奏功したことに加え、子会社業績好転等による貸倒引当金戻入額の増加、税金費用の減少等もあり、減収の影響を消し去り、営業利益・経常利益・当期純利益とも、前回発表予想を上回る見込みです。

2. 配当予想の修正

(1) 修正の内容

基準日	1株当たり配当金(円)		
	第2四半期末	期末	年間
前回発表予想	7.00	16.00	23.00
今回修正予想	—	13.00	20.00
当期実績	7.00	—	—
(ご参考) 前期(平成21年3月期)実績	7.00	16.00	23.00

(2) 修正の理由

当社は、経営基盤と財務体質の強化を図るとともに、株主の皆様へ積極的にかつ継続的に利益還元を行うこととし、当面、①配当性向30%以上 ②1株当たり年10円以上 を基本方針として配当を実施しております。

上記のとおり、平成22年3月期の連結及び個別の業績は前予想を大幅に上回る見込みにありますが、厳しい経営環境を反映し特に個別業績において売上高・利益とも前期までの水準を大きく下回る見込みです。経営環境の変化への対処も急がなければなりません。内部留保にも考慮しつつ、株主の皆様への長期的な視点に配慮し、引き続き安定的な配当を行う所存です。

誠に遺憾ではございますが、期末配当金の予想を前回発表予想の1株当たり16円から13円(年間23円から20円)に修正させていただきたいと存じます。

(注) 上記の予想は、本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき作成しております。実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

以上